V-CUBE

製造業向けソリューション

xSync

バイ シンク

遠隔ビジュアルコラボレーション

フィールド業務支援
ウェアラブル機器連携

高音質
Web会議

高画質
ビジュアライザー

現物共有

製造業の未来
導入できるテクノロジー

海外拠点と
つながる工場

遠隔での監視

IoT

IoT 活用を促進する！
攻めのアフターマーケット

BCP 緊急対策

株式会社ブイキューブ

Webのビジュアル
コラボレーションの
未来へ

常にスピードとクオリティを要求される
ビジネスシーンでの遠隔地との情報共有コミュニケーション。
xSync Prime Collaboration は、かんたん・高品質で
よりスムーズな遠隔コラボレーション会議を実現します。

製造業向け Web 会議

フィー

製品設計・生産設計

企画　デザイン　シミュレーション・試作　生産

技術 / 経験の蓄積

P.6-7

製造業向け Web 会議
高画質の画面共有により現物や設計図を共有できます
企業のレビューワークや遠隔会議が変わります

P.8-9

フィールド業務支援
ウェアラブル機器に対応し工場・現場・本部をつなぎます
スマートフォンやタブレット端末からも簡単に参加

P.10-11

アフター市場・サポート
IoT 導入の進む現場に攻めのソリューションを実現
リスクを抑えて CS 向上や利益貢献につながるサービス

P.12-13

技術 / 経験の蓄積と伝承
ベテラン人材の視点共有による伝承期間の短縮・高効率化
人材育成と長期にわたる企業価値の創造を

P.14-15

導入実績・構成図
メーカー、ものづくり企業におけるご活用事例
xSync Prime Collaboration 標準構成図

ルド業務支援

アフター市場・サポート

販売

サービス・メンテナンス

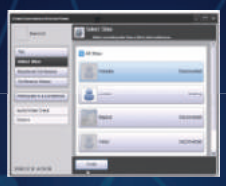
グループワークの変革で、創造的で生産的なコラボレーション会議を実現

「高音質・高画質」と「狭帯域（ナローバンド）での安定性」を兼ね備えた、
高セキュリティな遠隔会議システムです。
PC やスマートデバイスから、どこでも簡単・快適な遠隔会議を実現。
映像・音声・資料を共有しながら、さまざまなシーンでのコミュニケーションを可能にします。

コラボレーション会議の変革に必要な機能

分かりやすい　安心　簡単

一括招集・すぐに会議をスタート



会議をする拠点に、簡単に
ワンタッチで接続できます。

クリアな音声・狭帯域でもつながる

遠隔コミュニケーションにおいて
「会話が途切れる」は致命的。
独自の伝送システムで「揺らぐ
不安定な通信」「狭帯域」でも
音を途切れにくくしました。

会議開始

最小限のボタン数。
簡単な操作メニューなので、会議に集中できます。

かんたん操作で迷わない

自分の画面をワンタッチで
共有。相手に画面を見せな
がら会話が可能です。

リアルタイム画面共有

あらゆるビジネスシーンの品質・スピードを向上

製造業向け Web会議

高音質 Web会議・海外拠点接続・高画質現物共有

フィールド業務支援

ウェアラブル機器連携・つながる工場・遠隔監視

アフター市場・サポート

IoT活用・映像手書き指示出し・顧客満足度向上

技術 / 経験の蓄積と伝承

オフショア開発教育・遠隔ハンズオン教育

高精細な資料共有

ビジュアライザーなどの入力機器で、現物の画像を表示。忠実な色再現で実物の質感・リアル感を伝えます。

会議記録を残せる

気軽に画面を保存し、メモしたホワイトボードも議事録として保存・配布が可能です。会議の録画もできます。

会議終了

会議を止めずに、複数の拠点からペン書きが出来ます。書いているペンの軌跡まで共有できるため、まるでそばで説明しているような臨場感です。

複数の拠点から同時に書き合える

データアップロード運用ではない為、サーバにデータは残りません。機密レベルに合わせたセキュリティ運用が可能です。

サーバーに残らない

01 Web Conferencing For Design / Manufacture

設計 / 製造業向け Web 会議

会議中に同じ画面を見ながら、考えを素早く伝える

複数拠点リアルタイム同時書き込み

デザインレビュー　オフショア開発

xSync なら

- 相手の書く軌跡が見える
- 双方向から資料を出し合える
- 画面を保存して議事録にできる
- やり取りを録画して後から確認できる

複数の拠点から同時に画面へ書き込みながらの打合せが可能。「ここ」「あそこ」のポインティングが会議の論点をより明確にします。独自のスムージング処理により、細かくなめらかな書き味を実現。書いている軌跡を含め共有するので、遠隔地の担当者があたかもそばで説明してくれているかのような臨場感で打合せを進められます。

海外出張、会議室の予約は不要！今すぐに打合せが可能

多拠点接続

品質会議　プロジェクト会議

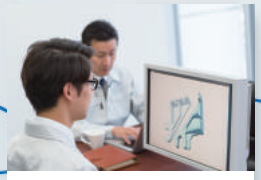
○ 本部会議室から

○ 設計分室から

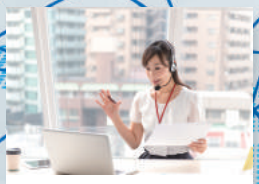
○ 自分のデスクから

○ 海外拠点から

○ 工場担当者から


○ 開発センターから

○ つかまりにくい重役も

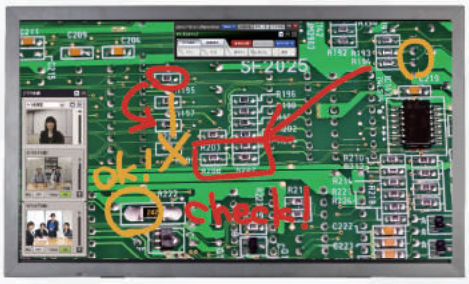

○ 外出先から

「専用の会議室を予約しないと使えない」「システムの導入拠点が限られている」「海外拠点は導入できない」などの制約を解決！インターネットに接続できる環境があれば、いつでもどこからでも、会議の参加が可能です。役員・管理職含め、関係者が一斉に参加し同時に情報共有。スピード感のある意思決定がビジネスチャンスを逃しません。

まるで現場にいるような、高精細な現物確認を

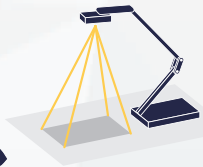
高速・高精細・大容量データ共有

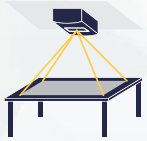
障害対策会議　デザインレビュー



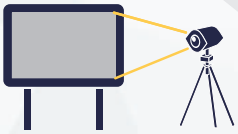
ビジュアライザーなどの入力機器で、現物の画像を表示。
忠実な色再現で実物の質感・シズル感を伝えます。
相互に切り替えながら、細部や動きを確認しあうことが出来ます。

卓上タイプビジュアライザー
基盤や精密部品など現物の撮像





天吊タイプビジュアライザー
テーブル上の大判図面
大型現物の撮像



ＥＹＥタイプビジュアライザー
大型現物や壁面のプロジェクト表
ホワイトボードの撮像

大部屋での電子テーブルとの組み合わせ
テーブル上の大判図面
電子テーブルにてペン書きしながら会議

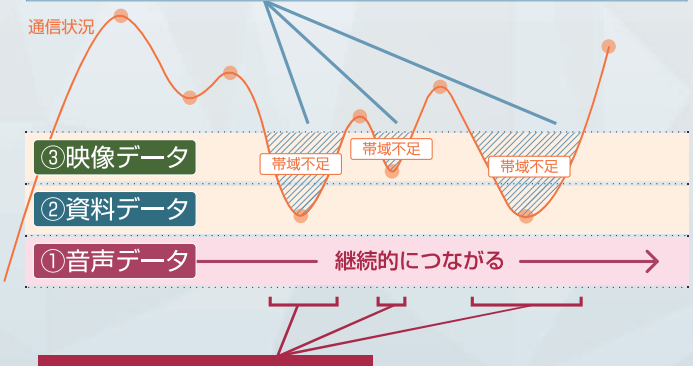
会議が途中で途切れない

高音質・狭帯域に強い

オフショア開発　障害対策会議

一般的な会議システム

全てのデータを MIX して伝送。
全てのデータが圧縮され通信できない状態に。
⇒音切れ･会議切断が続く



xSync Prime Collaboration

①音声②資料③映像の順にデータを分けて伝送。
帯域不足下でも優先順位①の音声は通常伝送可能。
⇒音声通話は問題なし。
⇒音声がつながっていれば、会議は続行できる。

テレビ・Web会議における音声によるコミュニケーションは、非常に重要です。一般的な Web会議システムでは、音質が悪い為、モゴモゴした音声で聞きとりづらく、またネットワーク回線の影響で音がとぎれたり、遅れて届いたりする事もあります。xSync Prime Collaboration は高音質コーデックを利用し独自の伝送システムを組合せる事で、音を途切れにくくし高音質な音を的確にリアルタイムで伝える事が出来ます。

上り帯域	音質（遅延2~3秒）	音切れ	映像	資料共有	書き込み
256kbps	◎	◎	◎	◎	◎
128kbps	◎	◎	△	△	○
64kbps	◎	◎	△	△	△

いずれのケースでも会議切断や音切れが発生することはなく、
会議そのものは問題なく開催できた。
※2 拠点での測定結果です。
※多拠点あるいは遅延やゆらぎ等により結果が異なることも
あります。

02 Field Work Support / Production Line
フィールド業務支援 / 生産ライン

双方向に情報を共有し状況をすぐに確認できます

インフラ工事現場

電話では伝わらない　その場で現場を見て指示したい　進捗が見えない
情報共有に時間がかかる　かさばる紙のマニュアルや図面を持ち歩いている
を解決

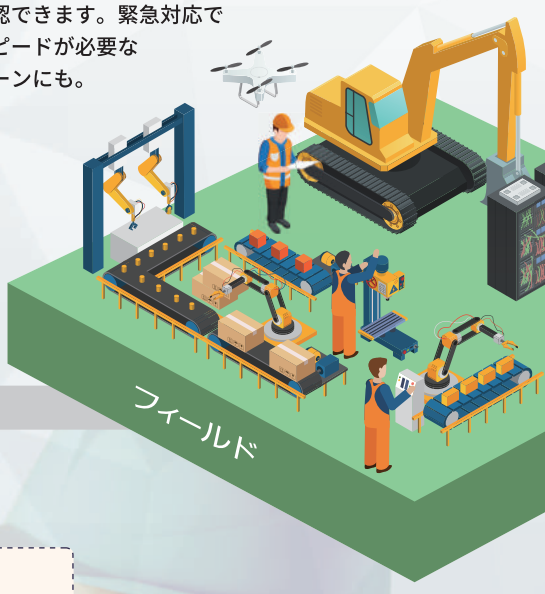
現場の状況をタブレットで
進捗をリアルタイムで連絡。現場の状況を見ながら確認できるので安心です。

今お使いの端末で簡単に
専用の端末は不要。今お使いのスマートフォン・タブレットで始められます。

作業員に直接指示
画面にペン書きで指示を直接送れるので、本部から作業員に直接指示が可能です。

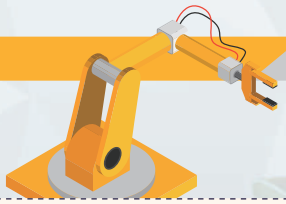
ドローン映像も共有
本部からドローンの映像も確認できます。緊急対応でスピードが必要なシーンにも。

マニュアルをタブレットに
手元のタブレットにその場で資料を送って、話しながら支援が出来ます。



工場・現地からお使いの端末で遠隔会議

つながる工場



作業品質が一定でない　機械の様子をすぐ確認したい
作業手順がチェックできない　問題発生時の対応が遅い
を解決

海外の工場をライブ映像で

生産ライン担当者と会議

本部とのコンセンサスに

生産ラインの現場ライブ映像をお互いが見ながら話し合うことで、問題点をすぐに認識・共有。リアルタイムな問題解決を可能にします。

作業者の視野に、直接書き込み指示

ウェアラブル端末連携

技術者不足　タブレットを持って作業できない
持ち帰る時間が無い　現場に解決できるベテランがいない
を解決

高画質で細かいところまで
視野を共有できる

支援中に
視界に資料が送れる

遠隔地から指示が出来る

ビジュアルコミュニケーションの未来

今後の展開

VR・MR 発展で拡がる可能性

AR 空間認識技術で拡がる可能性

アフターマーケット / サポート＆サービス

保守・メンテナンス担当者の悩み

顧客満足度の向上とコスト削減を両立したい

- 技術者不足
- 電話では伝わりにくい
- 不要な再訪問を抑えたい
- 対応力強化
- 顧客満足度上昇
- 顧客サポート対応時間を短縮
- 不要な現場訪問を減らし、コスト削減したい

保守・メンテナンスの担当者は、
増えるばかりの維持コストの削減と
技術者不足に相反するように、従来よりも更に高品質なサポート対応と顧客満足度の向上を、常に求められています。
xSync はビジュアルコラボレーションの力で、こうした課題の解決をご提案します。

技術者不足を解消！

現場のリアルタイム映像を多拠点で共有

現場担当者に専門的な知識が無くても、これからは不要な再訪問の必要はありません。
xSync Prime Collaboration なら、別の現場に出ているベテラン技術者に、映像を共有しながら作業指示を仰ぐことが可能です。

再発防止・顧客満足度 UP

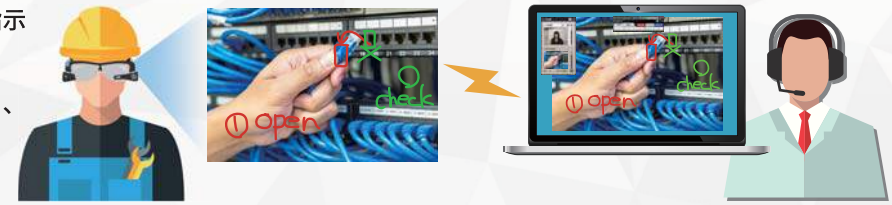
トラブル対応方法を、全拠点へ一斉に伝達

障害発生現場の状況を全拠点で共有し、役員・管理職含め一斉に会議に参加。
現場の映像を共有し、ペン書きも全拠点で同時に可能なため、
正確な情報を伝達できます。
トラブル状況を関係者へ横展開すれば、その場で再発防止策を教育できます。

再訪問防止・対応時間短縮

ウェアラブル端末の視野に、直接指示を書き込む

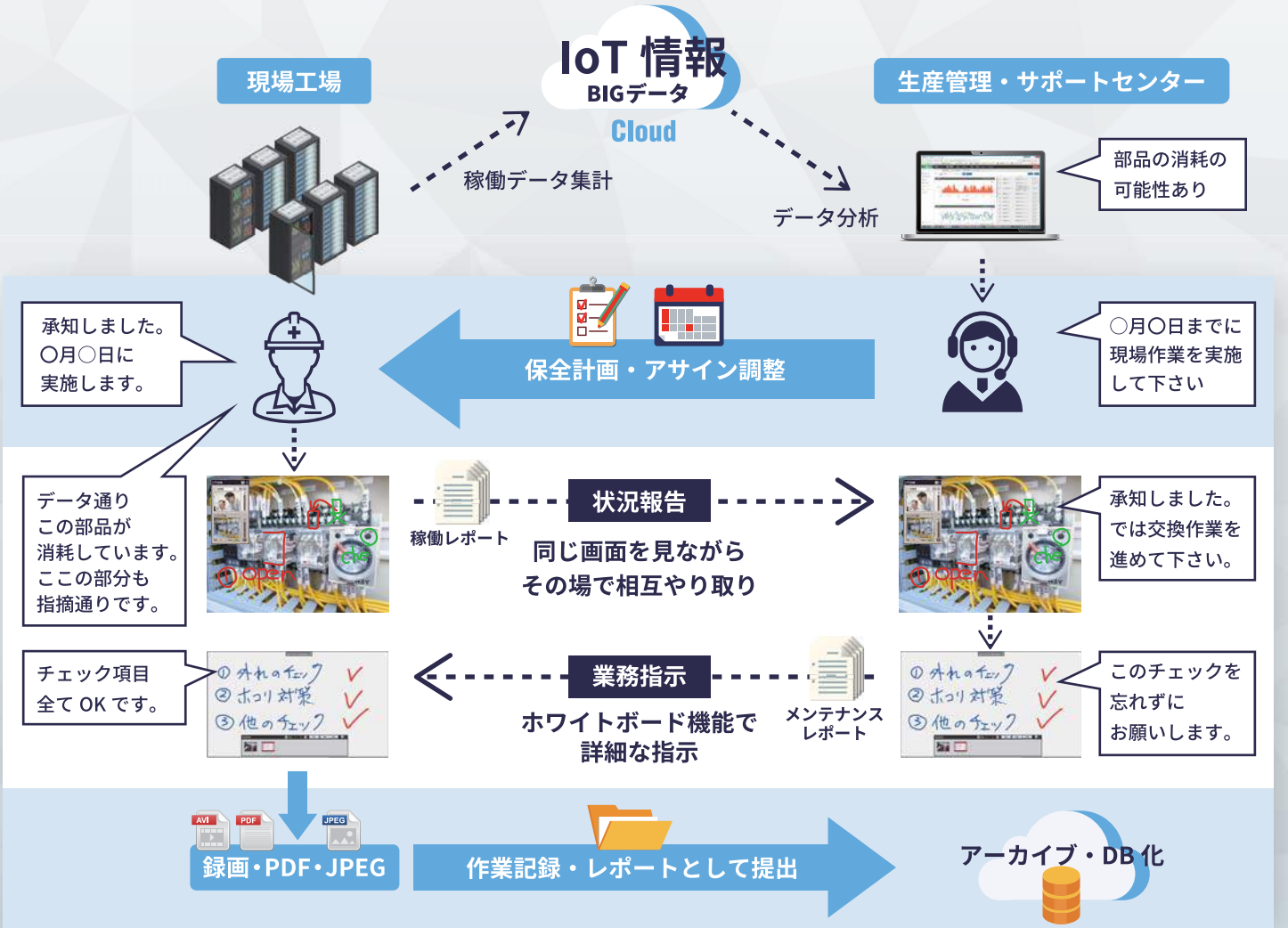
支援中に、作業者の視野にペン書きしながら指示ができます。
その場で疑問が解決するので、再訪問も少なく、対応時間が大幅に短縮可能です。



提案型サポート・対応スピード UP ！

IoT 情報を利用した、攻めのアフターサポート提案

対応消耗品の閾値を設定し、サービスマンが部品交換や修理時期の把握をすることで「先手」を打つことができます。
受け身になりがちな部品交換やオーバーホール、整備などのアフターサービスを“攻めの提案”に。



社内教育の課題と解決策（グループソリューション）

技術スキル育成プロセスの課題を解決

CAD 研修の場合

1 教材を使った研修

問題点①

講習用カリキュラムの
検討・作成・編集に
膨大な工数がかかる。

解決策①

QUMU

Qumu の動画マニュアルなら
カメラに向かって話すだけ。
簡単に、短時間で、
プレゼンテーション資料を元にした
動画制作がデスクトップ上で行えます。

2 集合研修

問題点②

スケジューリングなどの
調整作業が大変

解決策②

iStudy

iStudy LMS なら、管理者による受講
アサインや学習者による研修申込みか
ら研修受講（受講済、未受講、キャン
セル）の管理を行うことができます。

問題点③

受講者のスキルレベルが異なるため
講習会進行コントロールが難しい

解決策③

iStudy

受講者のレベルに合わせて個別の
ｅラーニング研修を実施。
スキルレベルを統一します。

問題点④

受講者は、実務研修までに
期間が空いてしまい、忘れてしまう

解決策④

QUMU

動画で復習が可能です。
今お使いの端末ですぐに見られます。

3 実務研修（ハンズオン研修）

問題点⑤

講師が海外に行ったり、
受講者が来日したりと、
効率が悪い

遠隔実務研修（ハンズオン研修）

解決策⑤

遠隔コラボレーションで
海外とも簡単に研修が可能。

xSync Prime Collaboration

4 OJT

問題点⑥

受講履歴、スキル管理の仕組みがない

iStudy LMS

解決策⑥

LMS で受講 / 診断管理　スキル管理

海外・遠隔地への教育

遠隔コラボレーションでリアルタイムな教育を

遠隔実務研修（ハンズオン研修）

分散された開発拠点でも、講師や受講者が移動することなく、PC上のＩＴツールやデータを共有し、活発な質疑を繰り返しながら、遠隔での実務研修が可能です。

資料の作成なしで、全拠点に一斉に教育

指示ペン機能により CAD の操作方法を指南したり、リモート操作により相手の画面上で直接設計標準を教えることが可能です。
また、録画機能で欠席者への教育も行き渡り、教育用の資料も作成不要。教育の効率化を図ることが出来ます。

ベテランの技術伝承・多拠点への教育に

ウェアラブル端末を利用した技術伝承

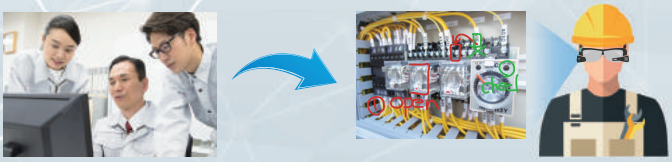
こんな企業様におすすめです

- 作業員が全国各地にいる
- ベテランの技術を若手に継承したい
- 実機を使用した集合教育が出来ない
- 教育のための資料がない

ベテランの視点を共有

多拠点に一斉配信

ウェアラブル端末の視野に書き込み



新人は現場で手を動かしながら学習可能

導入事例 / システム構成図

セイコーインスツル株式会社

国内から海外へと広がる拠点との遠隔会議に、xSync Prime Collaboration を導入 さらに、セイコーホールディングス・グループ全社での活用へ

セイコーインスツル株式会社 (以下、SII) は、顧客が求める技術やサービスをよりタイムリーに提供するために、遠隔会議システム「xSync Prime Collaboration」(以下 Prime) を導入した。

導入の経緯

事業拡大に伴う、設計部門と製造部門の分離を背景に、膨らむ出張＆通信コストを削減するコラボレーションツールを

総合企画本部　情報システム部
WMS課 課長　遠藤浩明氏

SII では 1990 年代後半、生産拠点が東北圏や海外へと広がり設計と製造部門が分かれる状況が進み、出張だけでは効率的な業務の遂行が難しくなった。そこで ISDN 回線によるテレビ会議専用機、2001 年には Web 会議ツール、2009 年にはサーバ型のテレビ会議システムへと移行。2010 年に「Prime」を導入。
「Web 会議ツールの契約更新のタイミングで、もっと良いシステムはないかと探したのがきっかけです。さまざまなサービスを比較検討した結果、Prime はクリアな映像・音質で質の高い遠隔会議ができる。また、設計・開発業務に不可欠な双方向同時書き込みなど、高精細データを使ったコラボレーション機能も優れているため、これなら今以上に力を発揮できると思いました」と遠藤氏。
実際に稼働したところ社内での評価が高かったことから、いわゆる TV 会議を超えて、SII グループが半期ごとに行う全社キックオフ大会の中継や、海外含め 20 箇所以上の拠点をつなぐ毎月の「朝会」、各事業が独自に国内外の拠点を結び実施してる月例大会の中継など､ブロードキャスト的な利用シーンでも活躍するようになった。
さらに、2015 年には並行して使用していたサーバ型のテレビ会議システムを廃止し、Prime のクラウドサービスへ全面移行を果たした。

導入効果・将来計画

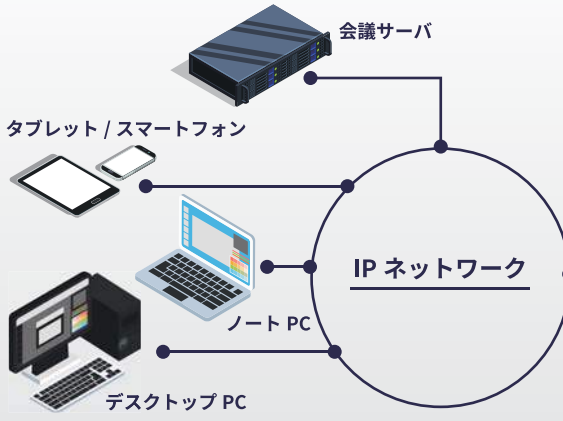
総合企画本部　情報システム部
WMS課 副主査　大熊信一氏

相手に確実に意思が伝えられる機能を評価 クラウドサービスの利点を生かし、社外ユーザーとの会議も

一方､クリアな音声の Prime は､まるで隣で話しているような感覚で会議が進められると話すのは大熊氏だ。
「しかも、以前の資料共有ツールでは双方向での使い勝手が悪く、一方通行な会議になりがちでした。でも、今は画面を見せたい拠点側がボタンを押すだけで資料共有ができたり、お互いの画面に書き込みしあって議論を深めたりといったことが簡単に実行できるようになりました」と相手に確実に意思を伝えられる機能に満足しているという。また、アプリケーションのバージョンアップなど、Prime のサービスは契約してからも進化を続けている点も気に入っていると指摘してくれた。
加えて、グループ会議で重宝しているのが Prime に標準搭載されている機能の「ネットワークディスプレイ」だ。「ケーブルの抜き挿しもなく、すぐに資料を見合えるので、この機能は一度使うと手放せなくなります」と大熊氏は話す。

最後に、今後の展開について遠藤氏は、将来的にセイコーホールディングスグループ全体を通したさらなる拡充にも意欲を見せる。
また、Prime はクラウドサービスとしてゲストユーザーも使用できる環境にあるため、そのメリットを生かす意味でも社外の取引先と活用する場面を増やすことを挙げ、「今後はもっと社外のユーザーともつながって、画面共有しながら設計や開発などが図れるようコミュニケーションを広げていきたいですね」と力強く語ってくれた。

システム構成例と豊富なオプション



東京急行電鉄株式会社

一刻も早く、事故や災害から復旧するために xSync Prime Collaboration ＋モバイル端末を活用 現場の状況が正確に共有できることで復旧作業が大幅効率化

東京急行電鉄株式会社（以下、東急電鉄）で鉄道に必要な電気設備を管轄する電気部では、異常時における現場状況を早期に共有し、よりスピーディーな復旧を目指すための業務改革として、遠隔会議システム『xSync Prime Collaboration』（以下 Prime）を導入した。

導入の経緯

モバイルデバイスとの親和性が高く 通信回線が細くても切断されにくく、音声がクリア

画面に手書きで指示を書き込むことができる。現場の作業者も、指示が明確なため作業をスムーズに行える。

何らかのトラブルにより電車が止まってしまった時、迅速かつ確実な情報共有が求められるが、これまでは通話による限られた情報共有しかできなかった。
つまり、どのような状況になっているかは専門の保守担当者が到着するまで分からず、復旧処置に時間を要していた。また、現場復旧の指示者も現地の状況を詳細に把握できないこともあり、明確な指示を出すことが困難な状況であった。

この状況を改善するために2016年4月、iPad、iPhone 1600台を導入し一定の効果を上げた。しかし、複数の関係各所を交えた指示には課題があり、解決策を探していた。そこで検討したのがPrimeを組み合わせるという運用だった。Primeはモバイルデバイスとの親和性が高く、細い帯域でも切断されにくく、音声や画像がクリアであることで、「現場の映像を全部署で共有したい」というニーズに合致した。

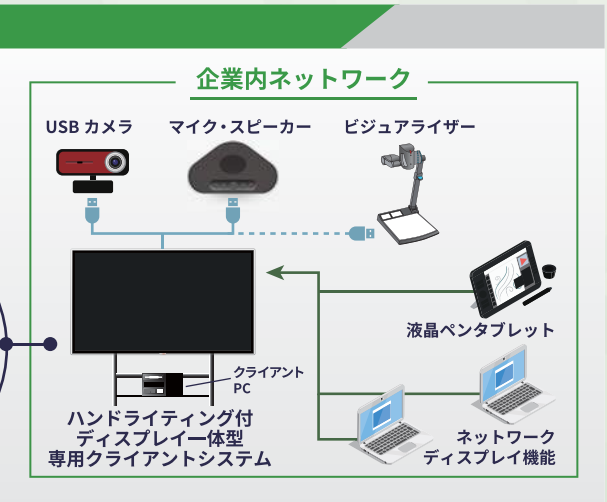
導入効果

東京急行電鉄株式会社
鉄道事業本部 電気部
計画課 主事
坂本 雅彦氏

現場からの映像に対して手書きで指示を行うなど コミュニケーションの正確性が格段に向上

従来は責任者と現場の担当者がテレビ電話（Facetime）で１対１のやり取りをしていたが、Prime の導入により、現場の状況や作業の進捗具合を全部署で映像を通じて共有でき、本社から現場に問い合わせなくても、適切な情報をお客様、報道機関に提供可能となった。主事の坂本雅彦氏は「以前は、現場に状況を電話で問い合わせをすることもありましたが、現場にしてみれば、復旧作業を急ぎたいのに電話対応により作業の効率が落ちてしまいます。しかし、本社としては情報が必要です。このジレンマが解消できました。」と振り返る。

また、現場からの映像に対して手書きで指示を行うなどコミュニケーションの正確性が格段に向上。現場の担当者も、具体的な指示が視覚的に入ってくることで、復旧作業をスムーズに進めることができるようになった。
「Prime 導入前は、現場に駆け付けた担当者だけでは対応できず、経験のある別のスタッフが応援に駆け付けるといったこともありましたが、その移動時間で復旧がさらに遅くなってしまうこともありました。しかし、経験豊富な社員が、遠隔で指示を出せるようになったことは、こうしたタイムロスを防ぐという効果にもつながります。」（坂本氏）



将来展望

いざという時に備え、日常業務での活用にも 浸透させるのが次の目標に

東急電鉄での導入目的は、災害や事故、故障からの復旧という「いざ」という時に備えてのものだ。坂本氏によると、「日常的に使っていないと、緊急時に活用できない」という危機感から、現場でも自主的な接続訓練を行っていたという。2016 年 12 月からは、各部署を横ぐしに連携させた組織的な訓練に昇格させたほか、定例の会議を Prime による遠隔会議で実施することで、まず Prime の活用を活性化させる方針だ。
坂本氏は、「電気系、工務系はほぼ１人に１台、モバイルデバイスが支給されていますので、緊急時だけではなく、メンテナンスなどの日常業務でも普通に活用するくらいに Prime を浸透させるのが次の目標です。現場からはさらにベテランのノウハウを活かした教材として使えないかなど、積極的なアイディアも生まれています」と今後の展望を説明した。

xSync Prime Collaboration

■基本システム構成

会議サーバ	会議サーバ(ソフトウェアライセンス含む)※
	リモートコントロールライセンス(オプション)
	予約拡張ライセンス(オプション)
	会議記録ライセンス(オプション)
	LDAP連携ライセンス(オプション)
	モバイル連携ライセンス(オプション)
	緊急対策ライセンス(オプション)
	エンジニアリングライセンス(オプション)
	HDビデオライセンス(オプション)
クライアントシステム	クライアントライセンス※
	パソコン※
	大型タッチパネルディスプレイセット (xSync Board) ・大型タッチパネルディスプレイ 60型～ ・キャリアブルスタンド
	USBカメラ
	マイク・スピーカー

※必須

■システム仕様

システムあたり最大同時接続数	20※1
最大会議数	20※1
会議あたり最大同時接続数	20※1
データリアルタイム共有解像度	推奨：1280x768 最大：1920x1080
カメラ映像	QQVGA, QVGA, VGA HD(オプションライセンス必要)
音声ビットレート	32 kbps
通信帯域	256 kbps以上※2、※3

注意事項

※ 1 標準は10です。予約拡張ライセンスを追加することにより、11以上が可能となります。
接続数をさらに拡大することもできます。詳しくはお問い合わせください。

※ 2 会議拠点：2、画面解像度：1280x768以下の条件です。

※ 3 快適にご利用頂ける通信帯域目安として512kbps以上を推奨します。
ただし同時使用アプリケーション・画面解像度などの環境条件により推奨値は変動致します。

■会議サーバ

会議サーバ

CPU	Intel® Xeon プロセッサー E3-1226v3 3.30 GHz 以上
メモリ	8 GB以上
HDD	250 GB （RAID1構成推奨）
ドライブ	DVD-ROMドライブ
OS	Red Hat® Enterprise Linux® ※(推奨7.3以上)

※最新の対応状況につきましてはお問い合わせください。

■クライアントパソコン動作環境

この条件を満たすすべてのパソコンについての動作を保証するものではありません。

OS※1	Microsoft® Windows® 10 Microsoft® Windows® 8.1 Microsoft® Windows® 7 SP1
CPU※2	Core™2 Duo プロセッサ 1.86GHz 以上 (推奨)Intel® Core™ i5 プロセッサ 以上
メモリ※2	1GB 以上 (推奨)4GB 以上
ハードディスク	512 MB 以上の空き容量(インストールに必要な空き容量)
カメラ・オーディオ	Microsoft® DirectX®準拠のカメラ、オーディオ・デバイス
必要アプリケーション	Adobe® Reader® Windows Media® Player 9 以上 Microsoft® DirectX® 9 以降 Microsoft® .NET Framework 3.5、または 4.5、または 4.6 Microsoft® Internet Explorer® 11※3
ネットワーク	TCP/IP(固定・DHCPどちらでも可)※4 IPv4 使用ポート・プロトコル：80(http) もしくは 443(https)

※ 1 各 OS の日本語版／英語版、32 ビット版／ 64 ビット版に対応しております。

※ 2 併用するアプリケーションやウィルス対策ソフト、UXGA 以上の解像度、ご使用の機能の設定や機能同時使用時には、増強が必要な場合もあります。

※ 3 64 ビット版 Internet Explorer® には非対応です。 Microsoft Edge™ には非対応です。

※ 4 有線でのLANを推奨します。

■モバイル端末動作環境

OS	iOS 6 以上 Android 6 以上
対応機種	iPad 2以降 / iPad mini以降 / iPhone 4S以降 Google Nexus 5 Google Nexus 5X Google Nexus 6P
ネットワーク	TCP/IP(固定・DHCPどちらでも可)IPv4 使用ポート・プロトコル:80(http)もしくは 443(https) (Wi-Fi環境を推奨します。)

※ Androidは、xSync Prime Collaboration Ver2.01以降で対応しております。

※ 会議アプリケーションは、「Google Play」（Androidアプリ）、「App Store」（iOSアプリ）からのダウンロードインストールとなります。(本アプリのダウンロードは無料です。)

注意事項

本動作環境は、画面解像度SXGA以下、併用アプリケーションはMicrosoft社 Office系を想定しています。

※ 1 記載以外のエディション、サービスパックには非対応です。

※ 2 OS、併用するアプリケーションやウィルス対策ソフト、ご使用の機能の設定によっては、増強が必要な場合もあります。

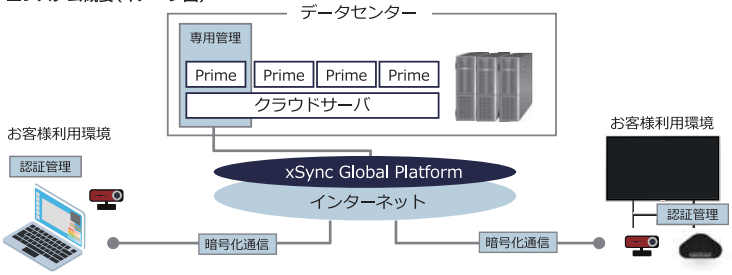
クラウドサービス

設備投資のいらない遠隔会議サービスメニューです。初期投資が少なく、リニューアル費用や管理費の削減が可能です。
お客様用の専用仮想サーバを準備しますのでお客様の利用に合わせた設定や、通常の WEB 会議に比べ高いセキュリティーを提供します。
クラウドサービスではオンプレミス型販売のオプションの「予約拡張」「リモートコントロール」「会議記録」「モバイル連携」「HD ビデオ」「エンジニアリング」が標準機能として含まれます。

■月額サービス化される項目（買取型との比較）

項目		クラウドサービス	システム販売
サーバ機器	サーバ本体	月額サービス	買取
	ネットワーク機器		
	データセンター内ネットワーク		
ソフトウェア	サーバソフトウェア		買取
	クライアントソフトウェア		
保守	ソフトウェアアップデート		年契約
	管理者サポート		
	ソフトウェア障害窓口		
	サーバ機器		
役務	設置・工事	初期費	初期費
	システム設計		

■システム概要（イメージ図）



保守契約のご案内

継続的なシステムサポートのために、保守契約にご加入ください。

ご導入後のシステム保守のご提供につきましては、保守契約加入（有料）が必要となります。詳細につきましてはお問い合わせください。

安全に関するご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ず「取扱説明書」をお読みください。
●水、湿気、湯気、ほこり、油煙等の多い場所に設置しないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。

●記載されている会社名、及び製品名は各社の商標または登録商標です。
●このカタログに掲載の仕様は改良のため予告なく変更することがあります。対応 OS はすべてのパソコン環境での動作を保証するものではありません。

株式会社ブイキューブ
本　　社　〒153-0051 東京都目黒区上目黒2丁目-1-1 中目黒 GTタワー 20 階　TEL (03)-6867-1080
中部事業所　〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2丁目-20-8 東栄ビル 10 階　TEL (052)-855-2461

記事内容は 2018 年 1 月現在のものです。

ホームページのご案内

掲載の商品は、ブイキューブインターネットホームページでも紹介しています。

xSync

https://xsync.vcube.com/